



Kyo.Prot.N. 43/2020

京都教区の皆さんへ

2020年復活祭 京都教区司教メッセージ

主の御復活のお祝いの挨拶を例年のようにしたいのですが、今年は新型コロナウイルス感染症による世界規模の惨事が継続している今日、心からお祝いを言い合える雰囲気ではありません。だからこそ、わたしたちは、主の復活の信仰を新たにし、いのちの源、与え主である神からの救いの恵みに感謝したいと思います。

昨年の教皇フランシスコの訪日のテーマは『すべてのいのちを守るため』ですが、まさに世界中が、『すべてのいのちを守るため』に奮闘しています。いのちを守ることが、どれほど多くの人々の協力と犠牲を必要とするか、痛感しています。2020年の四旬節のテーマは「聖霊によって新たにされる」でしたが、四旬節そのものが、ミサ休止という試練の時となりました。わたしたちは、これからも続く困難な時期を、ミサ、ご聖体によって養われている信仰を見つめ直す時としましょう。

信徒のみなさま、フランシスコ教皇も呼びかけておられるように、世界が直面しているパンデミック危機の中、ともに祈ることの大切さを、今こそ心に刻み、祈り続けましょう。この病気で亡くなられた方々の安息を祈ると共に、感染された方々、現在治療を受けられている方々の一日も早い回復と、医療従事者の健康を祈りましょう。司教団の作成した『新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り』を唱えてください。わたしたちは、キリストの体である共同体のきずなで結ばれています。個人としても、カトリック教会としても、祈りの持つ力への信頼を失わず、ミサに与ることができなくとも、祈り続けましょう。

お願いです。感染を広げないため、隣人への愛の行いとして、あらゆる犠牲を捧げましょう。京都教区がミサを自粛する目的は、『すべてのいのちを守るため』、各自が意識しないまま感染源となり、他の方を危険にさらす可能性を避けるためです。

どのような状況にあっても、あわれみの神に信頼し、復活して、わたしたちとともにおられる主イエス・キリストへの信仰を新たにし、一日も早くこの感染症が終息し、人類に平穏な日々がもどるように、いつくしみ深き母である聖マリアと、教会の擁護者である聖ヨセフの執り成しによって祈りましょう。

2020年4月11日 復活徹夜祭

カトリック京都司教

パウロ 大塚喜直

✠パウロ大塚喜直